

(平成 28 年 7 月試験研究業務月報)

タスクチーム活動：飼料用米の新制度に対応するための栽培・利用方法の提案

指 導

タスクチームによる飼料用米生育調査

畜産センターでは、農林センター、中丹西・丹後農業改良普及センターとタスクチーム※を組み、鶏糞堆肥等の有機質資材を活用した飼料用米の単収向上のための技術指導と生産農家の増加に向けた活動を行っています。

この度、府内 15 箇所展览展示まで、最も株分かれする田植後 30 日から 50 日の生育状況を調査し、収量確保に向け生産農家へ追肥等の栽培管理について助言を行いました。

今後は、収穫時調査を実施して指導効果を確認するとともに、経営上の飼料用米の優位性を農家へ伝え、次年度の作付け増加を目指します。

※タスクチーム…研究機関と普及組織が連携して地域の重要課題を解決する活動



今年度の飼料用米は天候にも恵まれ順調に生育しています(7月12日)

畜産センター